

● 編集発行 調布市郷土博物館 ● 調布市小島町 3-26-2 ● ☎ 042(481)7656



日活撮影所前の風景 昭和38年

調布市誕生から七十年

昭和三十(一九五五)年四月一日、調布町と神代町じんたいが合併し、新たに調布市が誕生しました。昨年は市制施行七十周年の節目の年にあたりました。調布市が生まれた頃の日本は、戦後の復興を経て高度経済成長の時代を迎えていました。市内には農村の風景が残っていました。人口の急増とともに宅地が増え、東京近郊の住宅地へと変貌を遂げました。市制施行当時の人口は四万五〇九〇人でしたが、約十年後の昭和三十九年には十万人に達しました。これは、京王線など交通アクセスが良く、都心からの転入が増えたことによるものです。昭和三十年代は、水道・ガス・ライフラインの整備など安心して暮らせるまちづくりが進められました。

昭和四十年代に入って団地ができるなど急速な宅地の開発が進み、市内の風景は大きく変化しました。染地付近の多摩川低地は「千町耕地」と呼ばれる広大な田畑でしたが、昭和四十二年までに大規模団地の多摩川住宅が建設されました。また、京王相模原線の開通(昭和四十六年)により、多摩川最後の渡し(菅の渡し)が昭和四十八年に廃止され、多摩川を渡して往来する風景も見られなくなりました。

市制施行七十周年の節目の年にあたり、郷土博物館では、市民の皆さんから提供していただいた館所蔵の古写真や市の広報写真などから調布市の歴史を振り返る写真展を開催したほか、文化会館たづくりでの移動展や市内施設(西部公民館、菊野台地域福祉センター、ふじみ交流プラザ)での写真パネルの出張展示を行いました。市制施行七十周年記念事業の開催について次頁以降でご報告します。